

先天性心疾患の子どもと家族への支援

キーワード：先天性心疾患、胎児診断、レジリエンス

領域・氏名

看護（小児看護学）講師／ 荒武亜紀

概要

先天性心疾患の子どもと家族に関する研究に取り組んでいます。現在は、胎児診断された先天性心疾患の子どもの母親に対する妊娠期からのレジリエンス促進のための支援について研究を行っています。

具体的な内容

胎児診断された先天性心疾患の子どもの母親は、妊娠期から子どもの不確かさや見通しがたたないなど不安や困難を体験しています。先天性心疾患の子どもは、重症な心疾患によって出生直後から根治手術までに手術を数回繰り返します。この間、周手術期を除いて子どもは、自宅で生活することが多いです。自宅での生活は、子どもが泣いて顔色が悪くなることでの育児の難しさ、子どもの状況判断の困難さ、薬を飲むのを嫌がり上手く飲めない、ミルクを上手く飲めない、ミルクを飲んだ後も泣いて抱っこで過ごすなど育児やケア方法に関する不安や困難感を抱えています。そこで、胎児診断された先天性心疾患の子どもの母親に対する妊娠期からのレジリエンス促進のための継続した支援のあり方を検討していきたいと考えています。

information

先天性心疾患の子どもと家族への支援、周手術期の子どもと家族への支援、医療的ケアのある子どもと家族への支援、子どもへのがん教育に関するテーマの共同研究を希望します。

小学生、中学生、その家族を対象に「小さい赤ちゃんの誕生！」「子どもの成長発達」「がん教育」に関するテーマでの出前講義が可能です。